

## 「コロナ禍での介護現場の実態」

みさと健和クリニック 介護保険相談室

命に係わる状態でも、ほとんどの患者が家族と会えない状況が続いていました。

すでに病院にご家族、本人が入院されていた方はご存知でしょうが、「全く面会ができない」状況が長くつづきました。現在でも、人数や時間の制限が行われています。また、介護施設でも同じ事が起こっていました。施設に入所している妻に面会をしたくて、やっとの思いで習得した携帯電話での面会。小さい画面に向かって「おかあさん。元気か？」と何度も問いかけるも、夫の顔が思い出せない。会えない距離がこんなにがつらい事とは思っていなかったと伝えてくれました。

在宅生活を支援する私たちも、施設入所を希望しても見学に行けない。ディサービスが始まったばかりなのに、感染が起こって事業所がお休みになったなど、家族が困っている事も多くありました。

しかし、面会ができない事で、最期を自宅で迎えたいと思う本人、家族が多かった事も確かです。通常なら病院で…と思うところを一緒に過ごしたいと思う気持ちが打ち勝って、自宅での時間を家族と共に自宅で過ごすことができました。

新しい感染症という大きな出来事で、どうしてもなく自宅を選ぶのではなく、安心して自宅に帰れる、選んで自宅で過ごせる時期が来たと思ひ、その実現をお手伝いしていきたいと思ひます。

